

日本人学生の人種に対するステレオタイプの分極性

The Dimension of Polarization on Ethnic Stereotypes Held by Japanese Students

異文化コミュニケーション / ステレオタイプ / 分極性

森泉 哲

MORIIZUMI Satoshi

I. はじめに

外国語科学習指導要領には、コミュニケーション能力の育成、コミュニケーションをしようとする積極的な態度の養成、そして国際理解の推進という目標が示されている。これらの目標を統合して、「新しい英語力」と表現し、松畑 (1991, p. 38) は「異文化コミュニケーション能力」の育成を主張している。このように、英語習得と同時に、英語科教育の領域でも、異文化コミュニケーションについて、より深く研究していかななくてはならない時が来ている。

英語科教育における異文化コミュニケーションの問題は数多く挙げられるが、その一つに、ステレオタイプがある。ステレオタイプは "an exaggerated belief associated with a category" (Allport, 1954, p. 187) と広義に定義される場合も見られる一方、厳密に "any categorization of individual elements concerned with people which mask differences among those elements" (Brislin, 1981, p. 44) のように、カテゴリー化とステレオタイプを区別する場合も見られる。我々が知覚する複雑多岐に渡る情報をカテゴリー化し、知覚の過程を秩序立てているという意味においては、ステレオタイプは有用である。しかし、ステレオタイプを保持する危険性は多数の研究者が指摘しており、例えば岡部 (1996, p. 116) は、ステレオタイプを保持することは「個人の相違や特異性を隠してしまう」と指摘している。また、Hewstone and Giles (1986) は、ステレオタイプで相手を判断してしまうことの不正確性を、以下の2点から指摘している。まず、我々の情報処理過程に影響を与え、情報を取捨選択してしまうこと、そして獲得されたステレオタイプで相手を見てしまうために、ステレオタイプが自己達成予言 (self-fulfilling prophecy) の機能として働いてしまうということである (Campbell, 1967)。

過度に一般化された知覚を総括してステレオタイプとする傾向が強いが、ステレオタイプは多局面から形成されるイメージである。Vassiliou et al. (1972, p. 90) はその局面を、(1) 複雑性 (2) 明瞭性 (3) (a) 分極性 (b) 一貫性 (4) 妥当性 (5) 価値 (6) 比較可能性という6局面にまとめている。この6局面の内、妥当性と比較可能性の2局面を除いた4局面について筆者は日本人学生を対象に調査を行ってきた。複雑性、一貫性については、伊原・森泉 (1995) で明らかにした。調査の結果、ステレオタイプの種類はそれぞれの人種によって異なっていることが明らかになった。この種類に基づいて、人種間の比較を行うために、SD法を用いて、Moriizumi & Ihara (1996) では、価値局面について調査を行った。

本稿では、Vassiliou et al. の6局面の内、分極性について調査を行う。分極性とは、あるステレオタイプについて、被験者がどの程度そのステレオタイプを堅固に保持しているかという程度に関する局面である。具体的には、日本人学生の抱えている自集団を含めた4人種に対するステレオタイプの分極性を調査し、自集団のイメージとの相違性及び類似性を明らかにする。更に、調査の結果及び考察を踏まえて、英語科教育においてステレオタイプに関する問題をどう扱うべきかについて示唆を行う。

II. 調査

A. 目的

日本人中学生・高校生・大学生を対象にして、白人系アメリカ人・黒人系アメリカ人・中国人の3人種集団に対するステレオタイプの分極性と日本人という自集団に対するステレオタイプの分極性とを比較することによって、その相違性及び類似性を明らかにする。

B. 被験者

被験者は、長野県に在住している中学1年生72名（男39名、女33名）、高校1年生72名（男40名、女32名）、及び教養課程科目の英語を履修している大学生85名（男42名、女43名、平均年齢19.8、SD = 0.83）であった¹。各教育レベルにおいて、およそ10名の海外経験者がいた。海外経験者と海外未経験者のステレオタイプの差異を調査したところ、数個のステレオタイプに有意差が見られたので、海外経験者は対象外とした²。そこで、実際の調査対象者数は中学生61名、高校生62名、大学生75名であった。

C. 調査方法

Moriizumi & Ihara (1996)で提示した人種のイメージを表した38の形容詞対の分極性について、SD法を使用し、7件法で被験者に回答を求めた。次に、それぞれのステレオタイプの価値を調査するために、形容詞の好ましさを測定した。具体的には、人種のステレオタイプの分極性について質問する前に、それぞれの形容詞対の好ましさについて5件法によって調査し、有意水準5%で有意に好ましいと判断できた形容詞を右側に配置し直した。そこで、各教育レベルごとに、人種ステレオタイプにおける分極性の差異を調査するために、7件法によって、1元配置の分散分析を実行した。主効果が有意水準5%以下で有意差が見られた形容詞は、Tukey法によって人種間の比較を行った。

III. 結果と考察

計38個の形容詞を一つ一つ考察していくことは紙面の都合上不可能であるので、各教育レベルの全てのステレオタイプに対する調査結果はAppendixに示すことにして、因子ごとにステレオタイプの分極性について考察していく³。38個のステレオタイプを因子分析した結果、性格特徴を表したステレオタイプは16個、文化背景のステレオタイプは8個、身体的特徴を表したものは6個であった。表1は、各人種に対するステレオタイプと日本人に対するステレオタイプとを比較して、有意差が見られたものを数量比較した結果である。

表 1.1 性格因子における日本人ステレオタイプと有意差が見られた各人種のステレオタイプ数 (/16)

	日-中	日-白	日-黒
中学生	6	8	8
高校生	10	13	14
大学生	7	12	14
日-中=日本人と中国人間のステレオタイプの有意差数			

表 1.2 文化背景因子における日本人と有意差が見られた各人種のステレオタイプ数 (/8)

	日-中	日-白	日-黒
中学生	4	7	6
高校生	6	8	7
大学生	7	8	8
日-白=日本人と白人系アメリカ人間のステレオタイプの有意差数			

表 1.3 身体的特徴因子における日本人と有意差が見られた各人種のステレオタイプ数 (/6)

	日-中	日-白	日-黒
中学生	1	5	5
高校生	5	5	5
大学生	4	5	5
日-黒=日本人と黒人系アメリカ人間のステレオタイプの有意差数			

表 1 の結果から、3 因子に共通した特徴として以下の 2 点が明らかになった。まず 1 点目は、教育レベルごとにステレオタイプの分極性には一定の傾向があるということである。中学生の抱く日本人のステレオタイプと 3 人種間のステレオタイプ間において、有意差のあるステレオタイプ数は高校生、大学生と比較して少ない。すなわち、日本人と外国人の差異について高校生や大学生が感じているほど、中学 1 年生は強くは感じていないことを示している。特に、性格の特徴を表したステレオタイプ (表 1.1) について、約半数の項目には有意差が示されなかった。この事実は、文化集団によって性格の特徴は異なっているというステレオタイプをまだ保持していないことを示唆している。

しかしながら、身体的特徴 (表 1.3) については、中学生の段階から日本人と白人系・黒人系アメリカ人の容姿の相違性を知覚しており、教育レベル間での差異は明らかではない。性格はその人と直接、長時間コミュニケーションしないと知ることができないことが多い反面、身体的特徴は、一瞬にして観察可能であるために、中学生の段階から日本人と他人種集団の差異を知覚していると言える。

3 因子に共通していた特徴の 2 点目として、どの教育レベルにおいても、有意差の表れたステレオタイプの数はそれぞれの人種によって一定の傾向があることが挙げられる。具体的には、日本人と白人系及び黒人系アメリカ人間の有意差の表れたステレオタイプ数に比較して中国人に対するステレオタイプ数は少ない。つまり、中国人と日本人のステレオタイプは類似していると学生は知覚しているのである。

中国人と日本人のステレオタイプが類似していることは、必ずしも実際の日中文化は類似していることとは必ずしも相関関係にあるとは断言できない。ステレオタイプは実際の文化差異と一致している場合もあり得るし、不正確な場合もあるからである (Gudykunst, 1994, p. 93)。今回の研究ではステレオタイプの正確性までは調査の対象としていないので、今後の研究結果に依らねばならない。

しかし、文化比較研究を行った先行研究と比較を行うと、今回の調査結果と研究者が述べている文化差異には多くの点で類似傾向がある。以前から日本及び中国は東洋文化としてまとめられており、数々の局面において類似性があると指摘されている。また、東洋文化とアメリカを含む西洋文化では様々な局面で差異があると多くの研究者によって指摘されている。例えば、異文化コミュニケーション学者が、日米文化比較を行う際には、Hall (1976) が述べた「高コンテクスト文化」と「低コンテクスト文化」の区別や Hofstede (1980) が因子分析を通して確認した 4 つの文化変数 (collectivism-individualism, masculinity-femininity, uncertainty avoidance, power distance) が使用されて論じられている (Gudykunst

& Nishida, 1994)。その他にも、Matsumoto (1984)、Okabe (1983) などは日米の文化の差異を様々な視点から考察を行っており、例えば、"individual-emphasis--group-emphasis," "being-doing" という視点から研究し、それぞれの文化の特徴をまとめている。また彼らは、日米文化は対称的な特徴があると論述している。

実際の文化差異とステレオタイプの差異との関係に関わらず、今回の調査で示唆できることは、調査対象の学生は自文化集団と他の3人種集団の特徴とを異なって知覚しているということである。日本人学生は、中国人に対してよりも、むしろ白人系・黒人系アメリカ人に対して自己とは異なっていると知覚している。

ステレオタイプの正確性に関わらず、ある人が相手集団のコミュニケーション様式、価値観、思考様式、容姿など自集団と相違性があると知覚することは、実際のコミュニケーションの仕方や動機に少なからず影響を与える。例えば、Barnlund (1994, p. 30) が提示している対人コミュニケーションの理解とコミュニケーターの類似性の関係を表した公式を異文化コミュニケーションに応用すると、相手の文化と自文化との思考様式、価値観などにおいて類似性が高ければ、深い理解につながるが、相手との相違性が大きくなるにつれ、相手を理解するのに困難が生じると言うことができる。つまり、ステレオタイプの相違性は、円滑な異文化コミュニケーションを行う際の障害物となっている。

これまで、人種間のステレオタイプに有意差が見られた項目数を比較考察してきた。次に、学生の日本人に対するステレオタイプと3人種のステレオタイプとの差異及び類似性を更に比較するために、表1で示した日本人に対するステレオタイプと比較して有意差が見られたステレオタイプに対して、日本人のものとは反対の方向にイメージしているものについて調査し、その数を示した (表2)。

表 2-1 性格因子における日本人ステレオタイプと相反する各人種のステレオタイプ数 (/16)

	日一中	日一白	日一黒
中学生	3	4	6
高校生	7	9	10
大学生	4	7	9

日一中=日本人と中国人間のステレオタイプの有意差数

表 2-2 文化背景因子における日本人ステレオタイプと相反する各人種のステレオタイプ数 (/8)

	日一中	日一白	日一黒
中学生	3	5	6
高校生	1	6	7
大学生	5	7	8

日一白=日本人と白人系アメリカ人のステレオタイプの有意差数

表 2-3 身体的特徴因子における日本人ステレオタイプと相反する各人種のステレオタイプ数 (/6)

	日一中	日一白	日一黒
中学生	0	4	4
高校生	0	5	5
大学生	0	4	5

日一黒=日本人と黒人系アメリカ人間のステレオタイプの有意差数

表2を表1と比較すると、以下の指摘ができる。第1に、中国人に対するステレオタイプは日本人に対するものと多くの類似性が見られるので、有意差が見られるステレオタイプ数はかなり減少する。特に、文化背景因子(表 2.2)と身体的特徴因子(表 2.3)においてはその傾向は顕著である。このことから、日本人学生は中国人を自集団と類似した存在であると知覚しているが、白人系・黒人系アメリカ人に対しては、日本人とは大きな相違性があると認識している。つまり、日本人学生は白人系・黒人系アメリカ人に対するステレオタイプと日本人に対するそれとは相反するイメージを抱くことがこの表からも示されている。

他集団に対して自集団とは異なったステレオタイプを抱くことは、それぞれの集団の文化が異なっていることを念頭に入れば当然のことではある。しかし、これらの差異は異文化コミュニケーションを円滑に行う際に支障となる。最大の障害は、差異が知覚されると、人はそこにその異質性に対して価値を入れてしまうことである。例えば、「鼻が高いー鼻が低い」というイメージを取り挙げて比較してみると、日本人と中国人に対して「鼻が低い」と思っているが、白人系・黒人系アメリカ人に対して「鼻が高い」と思っている。学生達は一般的傾向として、「鼻が高い」方が好ましいとしており、この鼻の高さの違いには個人差はあるが、価値が入らざるを得ないのである。

価値には、肯定的、否定的、中立的の3類型が考えられる。特に、自文化と相手文化には差異があると知覚した時には、自文化の価値観を中心にして相手文化に対する価値判断をしてしまうと、自文化中心主義に陥る危険性がある。自文化中心主義とは自文化を中心として、自文化が正しく、相手文化は間違っているという態度のことである。このステレオタイプにおける価値局面に関する調査は Moriizumi & Ihara (1996)で明らかにした。この調査では、4人種の中で中国人に対して、最も価値を置いていないが、白人系アメリカ人及び日本人自身に最も高い価値を置いていることが発見できた。

今回の調査においても、価値局面との関連としてコミュニケーションの動機や感化面に影響すると思われる形容詞を取り上げて考察すると、例えば、「嫌いー好き」の形容詞対では、中・高校生ともに日本人と白人系アメリカ人に対しては、中国人、黒人系アメリカ人より好意を抱いている。大学生については日本人に対して最も好意を抱いている。「近寄りにくいー近寄りやすい」という社会的距離を尋ねた質問についても、類似した傾向が見られ、日本人が最も近寄りやすく、次に白人系アメリカ人に対して近寄りやすいと回答している。

どの人種に対しても好意的なイメージを持つことが理想的である。ある人種だけに対して好意的なイメージを保持するといった偏りのあるイメージを抱くことはコミュニケーション上問題になるからである。調査結果から日本人学生は、白人系・黒人系アメリカ人に対して好意的なイメージを抱く傾向がある。この事実は、中国人に対して蔑んだ見方をしてしまうと同時に、アメリカ人とコミュニケーションをする際、相手の言ったことを鵜呑みにしてしまったり、変に緊張してしまったり、また、過度の憧れを持ちすぎて、自分の期待通りにいかずに失望してしまったりするというようなコミュニケーションの問題となり得るのである。

IV. まとめと英語教育への示唆

今回の調査から、日本人学生が自集団に対して及び中国人に対して保持するステレオタイプとは多くの点で類似している反面、白人系・黒人系アメリカ人に対しては、自集団とは異なったステレオタイプを抱いているということが明らかになった。この調査結果を外国人とのコミュニケーションの仕方を教育する英語科教育でどう扱ったらよいか示唆し、まとめたい。

ステレオタイプで相手を判断することの最大の欠点は、ある個人を判断する際に個人の特徴として判断せずに集団の特徴として判断してしまうことである。コミュニケーション様式及び価値観などは文化

によって差異が見られるために、実際のコミュニケーションにおいては、個人の特徴を把握しない限り、相手に対して正確な知覚ができずに、コミュニケーションは円滑に運ばないということを示している。この主張から、異文化コミュニケーションでは、特にステレオタイプで相手を判断せずに個人の特徴を把握することが重要であることを教育で扱うべきである。

また、相違性を知覚した際に、それに対して、我々は否定的な価値を抱いてしまうので、この傾向を避けなければならない。特に身体的特徴は先天的なものであるために、たとえ身体的特徴は人種集団によって特徴は異なっていようと、その特徴で人を判断したり、否定的なイメージを持つべきではない。また、性格及び文化背景の特徴においても、過去に獲得された知識やステレオタイプで判断することは危険である。

そこで、異文化コミュニケーション教育では、日本人と同様に異文化の人々とコミュニケーションしたいという動機と関心を養い、相手の意見や気持ちを理解しようとする共感力を育成することがこの教育の成否の鍵になる。しかし、異文化コミュニケーションの動機や関心を生徒に育成することは困難な場合もある。特に、アメリカなどの多文化社会と比較して、日本社会はいくら外国人が増加したと言っても、まだ全人口の約1%にすぎないのが現状であるために、多文化社会に比較して外国人との異文化コミュニケーションの必要性が欠如している。そのため、異文化コミュニケーションへの動機も低い生徒に関心を持たせることは困難である。

そこで、異文化コミュニケーション教育では、常に対人コミュニケーションが基本になっていることを念頭においた教育が望まれる。英語授業ではペアワーク、グループワークの形態がよく使用されるが、生徒はいつも決まった生徒と活動をしたがると聞く。そうではなく、様々な生徒と活動させることによって、生徒にコミュニケーションの楽しさ、難しさを理解させていくべきである。教室内での生徒と教師、または生徒同士のより良いコミュニケーションの仕方を考えることによって、日本文化内でのコミュニケーション、さらに異文化コミュニケーションのあり方を学んでいくことができると思われる。

ステレオタイプはコミュニケーションを行う上で、差異を誇張してしまう色眼鏡のような機能をする。この問題を乗り越えるためには、お互いの共通理解を図ろうとする確固たる動機、相手の思考及び価値観について真剣に考え、相手の行動を予想する共感力が必要となってくる。また、コミュニケーションは常に動的であり、話し手及び聞き手の双方が「社会調整」を行うことが必須となる。生徒の動機、関心、共感力、及び社会調整能力を育成する教育内容・方法はどうか具体的な授業での方策が示されることがこれから望まれる。さらに研究や議論を積み重ね、理論・実践の両面からの妥当性のある方法論が提示されることが求められる。

(名古屋女子商科短期大学)

註

- (1) 今回の調査での被験者は長野県在住している学生であるので、調査結果は日本人学生全体のステレオタイプの傾向と一致しないこともある。
- (2) 海外経験者が多ければ、海外経験者と、未経験者のステレオタイプの差異について調査し、比較す

ることができたが、経験者が少数なため、今回の分析調査では扱わない。今後の調査課題としたい。

(3) 因子分析の処理の仕方は Moriizumi & Ihara (1996) で詳述した。

(4) 日本人、中国人、白人系アメリカ人、黒人系アメリカ人のそれぞれの欄の数字は、各形容詞対の分極性の平均である。分散分析の際には、それぞれの項目の標準偏差が必要であり、表に掲載すべきである。しかし、紙面の都合上割愛した。

引用文献

Allport, G. 1954. *The Nature of Prejudice*. Reading, MA: Addison-Wesley.

Barnlund, D. C. 1994. "Communication in a global village." In L. A. Samovar & R. E. Porter (eds),
Intercultural Communication: A Reader (7th ed.). pp. 26-36. Belmont, CA: Wadsworth.

Brislin, R. 1981. *Cross-Cultural Encounters. Face-to-Face Interaction*. New York: Pergamon.

Campbell, D. T. 1967. Stereotypes and perception of group differences. *American Psychologist*. vol. 22.
pp. 812-829.

Gudykunst, W. B. 1994. *Bridging Differences: Effective Intergroup Communication* (2nd ed.). Thousand
Oaks, CA: Sage.

Gudykunst, W. B., & Nishida, T. 1994. *Bridging Japanese/North American Differences*. Thousand Oaks,
CA: Sage.

Hall, E. T. 1976. *Beyond Culture*. New York: Anchor Press.

Hofstede, G. 1980. *Culture's Consequences: International Differences in Work-Related Values*.
Newbury Park, CA: Sage.

伊原巧・森泉哲. 1995. 「日本人学生の人種に対するステレオタイプと英語教育」『信州大学教育学部
紀要』 第 86 号 pp.39-50

松畑熙一. 1991. 『英語授業学の展開』大修館

Matsumoto, S. 1984. Cultural transformational rules. *Journal of Nanzan Junior College* vol. 12.
pp.45-59.

Moriizumi, S., & Ihara, T. 1996. The value dimension of ethnic stereotypes held by Japanese students:
Implications for English language education. *Annual Review of English Language Education in
Japan (ARELE)*. vol. 7. pp. 29-38.

Okabe, R. 1983. "Cultural assumptions of East and West: Japan and the United States." In W. B.
Gudykunst, (ed.), *Intercultural Communication Theory: Current Perspectives*. pp. 21-44. Beverly
Hills, CA: Sage.

岡部朗一 1996. 「個人と異文化コミュニケーション」石井・岡部・久米著 『異文化コミュニケーション』(改訂版) 有斐閣 pp. 102-120.

Vassiliou, V., Triandis, H., Vassiliou, G., & McGuire, H. 1972. "Interpersonal contact and stereotyping."
In H. Triandis (ed.), *The Analysis of Subjective Culture*. pp. 89-115. John Wiley and Sons.

Appendix 1. 4人種のステレオタイプの分極性の平均と有意差 (中学生) ⁴

形容詞対	日本人	中国人	白人	黒人	人種間差	日-中	日-白	日-黒
1 自分勝手な-他人を思いやる	3.68	4.25	3.98	4.13	2.27			
2 悪い-良い	4.34	4.13	4.46	4.18	.49			
3 ずるい-正直な	3.37	4.25	4.16	4.35	9.02***	*	*	*
4 怠けている-勤勉な・勤劳な	5.24	4.52	4.36	4.56	6.41***	*	*	*
5 不親切な-親切的な	4.02	4.33	4.41	4.58	2.58			
6 暗い-明るい	4.73	3.78	5.51	5.06	16.10***	*	*	
7 不潔な-清潔な	5.30	3.84	5.44	3.89	34.01***	*		*
8 不真面目な-真面目な	4.48	4.62	4.28	4.11	2.23			
9 大ざっぱな-きちんとした	4.27	4.17	3.92	3.37	5.41***			*
10 自信のない-自信のある	4.08	4.40	5.20	4.77	9.60***		*	*
11 近寄りにくい-近寄りやすい	4.92	3.44	4.11	3.38	14.61***	*	*	*
12 優しくない-優しい	4.40	4.16	4.49	4.65	1.16			
13 こわい-こわくない	4.94	4.16	3.75	3.27	14.49***	*	*	*
14 けちな-けちでない	3.35	3.65	4.42	4.29	8.94***		*	*
15 でしゃばりな-控えめな	3.74	4.03	3.18	3.79	5.58***		*	
16 冷たい-暖かい	4.19	4.16	4.25	4.47	.75			
17 堅い-自由な	3.47	3.68	5.15	5.18	19.64***		*	*
18 回りくどい-率直な	3.73	3.92	4.61	4.33	4.88**		*	
19 弱い-強い	3.40	4.22	5.36	5.26	31.20***	*	*	*
20 曖昧な-はっきりした	3.60	4.05	5.03	4.73	15.84***		*	*
21 消極的な-積極的な	3.83	4.16	5.07	4.68	10.59***		*	*
22 貧しい-金持ちな	5.22	3.43	5.11	3.61	37.20***	*		*
23 保守的な-進歩的な	4.48	3.63	4.97	4.18	8.42***	*	*	
24 忙しい-のんびりした	2.87	3.51	3.92	4.52	14.74***	*	*	*
25 背が高い-背が低い	3.56	3.46	6.18	5.10	75.93***		*	*
26 足が短い-足が長い	3.44	3.67	5.72	4.97	39.85***		*	*
27 頭が悪い-頭が良い	4.78	4.30	5.02	3.90	11.19***	*		*
28 顔立ちが悪い-良い	4.13	3.78	5.41	4.00	20.39***		*	
29 鼻が低い-高い	3.62	3.57	5.78	4.47	33.30***		*	
30 体が小さい-体が大きい	3.59	3.47	5.72	5.44	53.62***		*	*
31 集団的な-個人的な	3.52	3.42	4.30	3.89	4.39**		*	
32 表情が乏しい-表情が豊かな	4.06	3.73	5.37	4.85	15.77***		*	*
33 騒々しい-静かな	3.30	4.06	3.16	3.35	4.83**	*		
34 嫌い-好き	1.48	3.75	4.57	4.18	7.71***	*		*
35 自己主張しない-する	4.42	4.27	4.87	4.39	2.21			
36 服従的な-支配的な	4.65	4.11	4.59	3.82	5.43***	*		*
37 閉鎖的な-開放的な	3.98	3.62	4.92	4.76	11.74***		*	*
38 忍耐のない-忍耐のある	3.82	4.54	4.10	4.60	6.20***	*		*

***p<.001 **p<.01 *p<.05

日-中=日本人と中国人に対するステレオタイプの分極性の有意差： 日-白=日本人と白人系アメリカ人のステレオタイプの分極性の有意差： 日-黒=日本人と黒人系アメリカ人のステレオタイプの分極性の有意差

Appendix 2. 4人種のステレオタイプの分極性の平均と有意差 (高校生)

形容詞対	日本人	中国人	白人	黒人	人種間差	日一中	日一白	日一黒
1 自分勝手なー他人を思いやる	3.94	4.08	3.68	4.38	3.73**			
2 悪いー良い	4.17	3.95	4.65	4.29	4.42**		*	
3 ずるいー正直な	3.29	4.00	4.50	4.94	17.29***	*	*	*
4 怠けているー勤勉な・勤劳な	5.97	4.92	4.11	4.56	28.65***	*	*	*
5 不親切なー親切的な	3.54	4.26	4.81	4.90	18.56***	*	*	*
6 暗いー明るい	4.00	3.56	5.82	5.49	54.69***		*	*
7 不潔なー清潔な	5.37	3.65	5.06	3.56	49.52***	*		*
8 不真面目なー真面目な	5.30	4.87	3.94	4.13	22.69***		*	*
9 大ざっぱなーきちんとした	5.17	4.53	3.66	3.00	31.66***	*	*	*
10 自信のないー自信のある	3.42	4.26	5.63	4.97	35.71***	*	*	*
11 近寄りにくいー近寄りやすい	4.22	3.42	4.34	3.17	11.61***	*		*
12 優しくないー優しい	4.00	4.37	4.71	5.02	10.53***		*	*
13 こわいーこわくない	4.57	3.82	3.94	3.10	16.23***	*	*	*
14 けちなーけちでない	3.25	4.40	4.48	4.92	26.57***	*	*	*
15 でしゃばりなー控えめな	4.95	4.42	2.84	3.49	43.69***	*	*	*
16 冷たいー暖かい	3.75	3.97	4.58	4.75	11.19***		*	*
17 堅いー自由な	3.03	3.21	5.69	5.49	53.51***		*	*
18 回りくどいー率直な	2.73	3.94	5.84	5.56	93.75***	*	*	*
19 弱いー強い	3.24	4.03	5.45	5.67	58.59***	*	*	*
20 曖昧なーはっきりした	2.48	3.95	5.63	5.25	82.11***	*	*	*
21 消極的なー積極的な	2.84	3.94	5.97	5.15	93.37***	*	*	*
22 貧しいー金持ちな	5.47	3.18	4.87	2.78	90.77***	*	*	*
23 保守的なー進歩的な	4.02	3.42	5.10	4.32	12.06***		*	
24 忙しいーのんびりした	1.78	3.73	4.38	4.81	64.83***	*	*	*
25 背が高いー背が低い	2.92	3.31	6.18	6.03	160.96***	*	*	*
26 足が短いー足が長い	2.86	3.40	6.16	5.65	158.22***	*	*	*
27 頭が悪いー頭が良い	5.06	4.26	4.87	3.43	33.03***	*		*
28 顔立ちが悪いー良い	3.94	3.81	5.29	3.90	32.46***		*	
29 鼻が低いー高い	2.71	3.13	5.97	4.56	103.68***	*	*	*
30 体が小さいー体が大きい	2.76	3.13	5.97	6.22	201.59***	*	*	*
31 集団的なー個人的な	2.92	3.05	4.85	3.92	23.54***		*	*
32 表情が乏しいー表情が豊かな	3.00	3.63	5.74	5.56	56.92***	*	*	*
33 騒々しいー静かな	4.06	3.31	3.10	2.78	21.12***	*	*	*
34 嫌いー好き	4.74	3.98	4.56	4.13	7.06***	*		*
35 自己主張しないーする	2.92	4.21	6.08	5.16	63.37***	*	*	*
36 服従的なー支配的な	4.05	3.56	5.11	3.33	24.68***	*	*	*
37 閉鎖的なー開放的な	3.13	3.29	5.73	5.49	71.70***		*	*
38 忍耐のないー忍耐のある	4.06	5.02	3.90	5.22	14.87***	*	*	*

***p<.001 **p<.01 *p<.05

日一中=日本人と中国人に対するステレオタイプの分極性の有意差： 日一白=日本人と白人系アメリカ人のステレオタイプの分極性の有意差： 日一黒=日本人と黒人系アメリカ人のステレオタイプの分極性の有意差

森泉 哲. (1998). 「日本人学生の人種に対するステレオタイプの分極性」.
『コミュニケーションと言語教育 (SURCLE) 第1号』, 36-45.

Appendix 3. 4人種のステレオタイプの分極性の平均と有意差 (大学生)

形容詞対	日本人	中国人	白人	黒人	人種間差	日-中	日-白	日-黒
1 自分勝手な-他人を思いやる	4.19	4.31	3.81	4.11	3.22*			
2 悪い-良い	4.39	4.32	4.47	4.40	.50			
3 ずるい-正直な	3.67	4.45	4.52	4.63	13.04***	*	*	*
4 怠けている-勤勉な・勤劳な	5.80	5.20	4.12	4.21	67.71***	*	*	*
5 不親切な-親切的な	4.19	4.38	4.63	4.57	3.71*		*	*
6 暗い-明るい	3.88	3.81	5.77	5.48	82.87***		*	*
7 不潔な-清潔な	5.27	4.17	4.79	3.84	57.86***	*	*	*
8 不真面目な-真面目な	5.39	5.29	4.23	4.13	44.06***		*	*
9 大ざっぱな-きちんとした	5.21	4.59	3.16	2.92	84.89***	*	*	*
10 自信のない-自信のある	3.31	4.60	5.59	5.08	59.74***	*	*	*
11 近寄りにくい-近寄りやすい	4.82	3.72	3.96	3.15	24.57***	*	*	*
12 優しくない-優しい	4.39	4.41	4.55	4.89	5.89**			*
13 こわい-こわくない	4.97	3.96	4.04	3.24	34.40***	*	*	*
14 けちな-けちでない	3.21	3.49	4.16	4.31	29.87***		*	*
15 でしゃばりな-控えめな	4.69	4.40	3.01	3.68	37.55***		*	*
16 冷たい-暖かい	4.23	4.03	4.36	4.71	7.62***			*
17 堅い-自由な	2.83	3.05	5.73	5.55	133.54***		*	*
18 回りくどい-率直な	2.51	4.17	5.68	5.28	152.86***	*	*	*
19 弱い-強い	3.49	4.35	5.11	5.57	64.70***	*	*	*
20 曖昧な-はっきりした	2.29	4.19	5.91	5.44	184.68***	*	*	*
21 消極的な-積極的な	3.04	4.09	5.92	5.39	178.66***	*	*	*
22 貧しい-金持ちな	4.93	3.48	4.88	3.09	78.39***	*	*	*
23 保守的な-進歩的な	3.49	2.93	5.24	4.17	51.86***	*	*	*
24 忙しい-のんびりした	2.23	3.52	4.19	4.76	54.19***	*	*	*
25 背が高い-背が低い	2.83	3.75	6.04	5.88	176.42***	*	*	*
26 足が短い-足が長い	2.99	3.79	6.03	5.65	192.92***	*	*	*
27 頭が悪い-頭が良い	4.84	4.71	4.67	3.84	17.41***			*
28 顔立ちが悪い-良い	4.04	4.09	4.96	4.07	26.82***		*	
29 鼻が低い-高い	2.83	3.37	6.05	4.43	145.50***	*	*	*
30 体が小さい-体が大きい	2.85	3.48	5.88	5.88	240.59***	*	*	*
31 集団的な-個人的な	2.36	2.96	5.24	4.28	86.91***	*	*	*
32 表情が乏しい-表情が豊かな	2.97	3.47	6.08	5.75	171.03***	*	*	*
33 騒々しい-静かな	4.52	3.96	3.08	2.92	40.50***	*	*	*
34 嫌い-好き	4.96	4.45	4.39	4.36	7.48***	*	*	*
35 自己主張しない-する	2.92	4.44	6.00	5.39	107.07***	*	*	*
36 服従的な-支配的な	3.61	3.47	5.15	3.63	48.48***		*	*
37 閉鎖的な-開放的な	2.73	3.19	5.83	5.07	127.76***	*	*	*
38 忍耐のない-忍耐のある	4.92	5.19	4.01	4.92	16.99***		*	*

***p<.001 **p<.01 *p<.05

日-中=日本人と中国人に対するステレオタイプの分極性の有意差： 日-白=日本人と白人系アメリカ人のステレオタイプの分極性の有意差： 日-黒=日本人と黒人系アメリカ人のステレオタイプの分極性の有意差